

研究会・クラス交流会 いよいよスタート

共生システム理工学類は、9名のグループアドバイザー（教員）によって各グループ約20名の少人数の教養演習が実施されています。教養演習は大学での「学び」を中心に学問への動機付けを与えることを目的とし、大学の施設利用、健康管理、読み・書き・討論



ロボティクスについて話す高橋教授とB組のメンバー

を主体として実施しています。また、グループアドバイザーの教員は、共生システム理工学類の教員として、それぞれの分野の専門家として、教養演習とは別に各自の専門領域で自分のクラスの学生と交流しようという動きが出てきました。後援会ではこうした自主的な研究会を学習の充実を図るために教育研究費で支援をしています。

また、今回のB組では、研究会の終了後、焼肉パーティが開催され、学生も不慣れな



焼肉パーティの準備をするB組メンバー

がらも自分達の手で準備し、楽しみ、片づけをするという手作りコンパでクラスのメンバーと親交を深めました。こうした行事にも後援会の学生交流会費で支援をしています。



入野学類長も招待されて学生と一緒に

がらも自分達の手で準備し、楽しみ、片づけをするという手作りコンパでクラスのメンバーと親交を深めました。こうした行事にも後援会の学生交流会費で支援をしています。